

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支えるケア等の実践について介護職がどのような形でどのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的にどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。各科目の到達目・評価・内容は別紙 1 - 2 に書いてあります。

1 日目

時間	カリキュラム	
9:00～9:30	オリエンテーション	
	講習についての注意事項	
9:30～12:30	職務の理解	
	介護職の仕事と働く現場の理解	第 1 分冊 P2
	1. 多様なサービスと介護職の仕事	
	1 介護と介護保険の意義	
	介護保険制度 保険者 被保険者 要介護認定	
	ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に	
	至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ	
	2. 多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場	
	・訪問介護サービス	
	・小規模多機能型居宅介護	
	・施設介護サービス	
	・認知症対応型グループホーム	
	・居宅サービス（訪問介護サービス以外）	
	・介護保険以外のサービス	
	障害者支援施設	
	宅老所	
	注意 各施設の特徴を伝える。	
	2. キャリアパス	第 1 分冊 P10
13:30～16:30	職務の理解のビデオ視聴 36分	
	(例) ビデオの中の問題について検討する。	
	グループディスカッションを行い理解を深める。	
	介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場	
	の具体的なイメージをする内容	
	時間に余裕があります。	
	介護保険が必要とされた背景などの説明。	
	介護保険の申請の手続きやケアプランの位置づけ	
	介護保険制度等介護の関わる場所の説明など。	

2日目

時間	カリキュラム	
9:30～16:30	介護における尊厳の保持・自立支援	
	人権と尊厳を支える介護	第1分冊 P14
	1. 人権と尊厳の保持	
	1. 個人としての尊厳	
	2. 権利擁護	
	3. 個人の尊厳と価値	
	4. 社会的役割の実感	
	2. ICF	
	1. 介護分野におけるICF	
	3. QOL	
	1. QOL	
	2. 生活の質と人間の尊厳	
	マズローの欲求段階説と自己実現	
	4. ノーマライゼーション	
	1. ノーマライゼーションの理念と実際	
	2. ノーマライゼーションの歴史	
	5. 虐待予防・身体拘束禁止	
	6. 個人の権利を守る制度の概要	
	－演習－	
	個人の尊厳を支える介護とはで事例を提案し	
	グループディスカッションを行い、グループごとに発表し、	
	学びを共有する。	
	事例 85歳女性、独居	
	認知の症状が見られます。昼食をとった後、しばらく	
	すると、「ご飯 まだ？」と聞いてきます。	
	あなただったらどの様に対応しますか。	

3日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	自立に向けた介護	テキスト第1分冊
	1. 自立支援	p 3 5
	1. 専門職として求められる。「自立」と「自律」	
	2. 自立支援の為の介護方法	
	2. 介護予防	
	1. 介護予防と健康寿命	
	2. 介護保険と介護予防	
	介護の基本	
13:30~15:00	介護職の役割、専門性と多職種との連携	
	1. 介護環境の特徴	
	1. 訪問介護サービス	
	2. 施設介護サービス	
	3. 地域包括ケア	
	2. 介護の専門性	
	1. 重度化防止・遅延化の視点	
	2. 利用者主体の支援姿勢、自律した生活を支える為の援助	
	3. 根拠のある介護	
	4. 事業所内のチーム、多職種からなるチーム	
	5. 医行為と医療的ケア	
	痰の吸引 経管栄養 研修を受けた介護職員は一定の条件の下、痰の吸引等行為を実施することができる。	
	3. 介護に関わる職種	
	1. チームにおける役割分担	
	2. 介護に関わる職種の機能と役割	
15:00~16:30	介護職の職業倫理	
	1. 法令遵守	
	2. 利用者の個人の尊厳と介入	
	3. 日本介護福祉会の倫理綱領	

4 日目

時間	カリキュラム	
	介護における安全の確保とリスクマネジメント	テキスト第 1 分冊
9:30~11:00	介護における安全の確保	p 6 5
	1. 介護における安全確保の重要性	
	2. リスクマネジメント	
	3. リスクマネジメントにおける重要な要素	
	事故予防、安全対策	
	1. 危険予防と事故予防	
	2. 事故発生時の対応	
	3. 具体的事例	
	緊急時に必要な知識と対応方法	
	1. 想定される事故	
	2. 応急手当	
	3. 応急手当の実際	
	－演習－	
	三角巾を活用した骨折の固定方法の演習	三角巾
	4. 一次救命処置の実際	
	－演習－	
	背部叩打法・ハイムリック法 人工呼吸・AED等	
	感染症対策	
	1. 感染症の理解	
	2. 注意すべき感染症とその対応	
	3. 感染症の予防と対策	
11:00~12:30	介護職の安全	
	1. 介護職の健康管理	
	2. 介護職に起こりやすい健康障害	
	3. 腰痛予防 仕事始めの体操・ボディメカの活用	
	4. 感染症の予防 図表 4 - 3 活用手洗いうがい	
	－演習－ エア-で手洗い	
	5. ストレスマネジメント	
13:30~16:30	介護保険制度	テキスト第 2 分冊
	1. 介護保険制度創設の背景と目的・動向	p 2
	1. 社会的背景 図表 1 - 1 政策の流れ	
	2. 介護保険法の成立	
	3. 介護保険制度の導入後の動向	
	2. 介護保険制度の仕組みと基礎的理解	
	1. 保険制度としての基本的仕組み	
	2. サービスの流れ	

	3. 介護保健サービス(介護給付・予防介護)	
	4. 地域支援事業・市町村特別給付・地域包括センター	
	3. 介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割	
	1. 制度運営の役割分担	
	2. 介護保険事業計画	
	3. 介護サービス事業者の質の確保	
	4. 苦情への対応	
	5. 情報公表・第三者評価	
	4. 医療保険制度の概要	
	1. 医療保険制度の概要	
	2. 後期高齢者医療制度の概要	
	5. 年金保険制度の概要	

5日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	医療との連携とリハビリテーション	第2分冊
	1. 高齢者の服薬と留意点	p 39
	1. 介護職員による服薬介助	
	2. 高齢者の服薬	
	2. 経管栄養・吸引・吸入・浣腸	
	従来医療行為」とされていたもののうち一定条件の下、介護職員が行うことができるもの	
	1. 経管栄養による栄養管理	
	2. 吸引	
	3. 吸入	
	4. 浣腸	
	5. 摘便	
	6. ストーマの取り扱い 商業施設 オストメイト対応トイレの設置	
	7. 自己導尿の介助	
	8. 褥そうの予防と処置	
	9. その他の処置	
	医行為か医行為でないかの区別の認識	
	3. 健康チェック	
	1. 健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術	
	2. 全身観察	
	3. 体温、脈拍、血圧、呼吸の測定による観察の方法 演習 脈拍測定・体温計の正しい入れ方(ボールペン)	
	4. 他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供	
	4. 訪問看護 時間があれば説明をしてください。	
	5. リハビリテーション医療の意義と役割	
	1. リハビリテーション	
	2. リハビリテーション医療の流れ	
	3. リハビリテーションと介護の連携	
	6. リハビリテーション医療の過程	
	1. 急性期リハビリテーション	
	2. 回復期リハビリテーション	
	3. 維持期リハビリテーション	
	7. 訪問・通所・地域リハビリテーション	
	1. 訪問リハビリテーション	
	2. 通所リハビリテーション	
	3. 地域リハビリテーション	
13:30~16:30	障害者総合支援制度とその他の制度	テキスト第2分冊

	1. 制度創設の理念・背景と目的	p 9 2
	1. わが国の法律で定める障害の捉え方	
	2. 障害者（児）福祉の背景と動向	
	支援費制度から自立支援制度-総合支援制度に至った経緯	
	3. 障害者雇用と就労状況	
	2. 制度の仕組みと基礎的理解	
	1. 障害福祉サービスの仕組み 図表 3 - 4・5等活用	
	3. 個人の権利を守る制度の概要	
	1. 消費者基本法	
	2. 障害者虐待防止法	
	3. 福祉サービス第三者評価	
	4. 成年後見制度	
	5. 日常生活自立支援事業	
	6. .障害者差別解消法	

6日目

時間	カリキュラム	
12:30～13:00	介護におけるコミュニケーション	テキスト第2分冊
	1. コミュニケーションの意義と目的、役割	p 1 2 6
	1. コミュニケーション	
	2. コミュニケーションの基本要素（定義）	
	3. コミュニケーションの目的と方法	
	4. 相手のコミュニケーション能力への理解と配慮	
	2. コミュニケーションの手段と技法	
	1. 言語的コミュニケーション	
	2. 非言語的. コミュニケーション	
	3. 利用者・家族への対応の基礎知識	
	1.利用者の信頼を得るためのカウンセリングマインド	
	2. 良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション	
	4. 利用者・家族への対応の実際	
	1. 利用者・家族の思いを把握するコミュニケーション	
	2.利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーション	
	3. 家族へのいたわりと励まし	
	5. 利用者の状況・状態に応じた対応	
	1. 聴覚障害者	
	2. 視覚障害者	
	3. 盲ろう者	
	4.失語症に応じたコミュニケーション	
	5. 構音障害に応じたコミュニケーション	
	6. 認知症に応じたコミュニケーション	
	7. 高次脳機能障害に応じたコミュニケーション	
13:00～13:30	介護におけるチームのコミュニケーション	
	1. 記録による情報の共有化	
	1. 記録の意義・目的 2. 記録の種類 3. 記録の書き方	
	4. 記録に関わる法令	
	2. 報告・連絡・相談	
	1. 報告・連絡・相談の意義・目的	
	2. 報告・連絡・相談の方法	
	3. コミュニケーションを促す環境	
	1. 会議の種類と会議に臨む姿勢	
	2. ケアカンファレンス	
	3. サービス担当者会議	
	4. 事例研究・事例報告	

7日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	老化の理解	テキスト第3分冊
	老化に伴うことと心身の変化と日常	p 2
	1. 老年期の発達と心身の変化の特徴	
	1. 加齢と老化の概念	
	2. 人格と尊厳	
	3. 老いの価値	
	4. 性役割と老年期の性	
	2. 心身の機能の変化と日常生活への影響	
	1. 老化に伴う心身の機能の変化	
	2. 身体的変化	
	3. 心理的变化	
13:30~16:30	高齢者と健康	
	1. 高齢者の疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系）	p 17
	1. 老年症候群とは	
	2. 老年症候群の早期発見	
	3. 運動器の機能向上	
	4. 口腔機能の改善	
	5. 低栄養の改善	
	6. 認知機能の向上	
	7. 尿失禁の改善	
	2. 高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系）	
	1. 生活習慣病	
	2. 脳神経系の病気	
	3. 循環器系の病気	
	4. 呼吸器の病気	
	5. 肝臓・胆道系の病気	
	6. 腎・泌尿器の病気	
	7. 骨や関節の病気	
	8. 精神の病気	
	9. 目と耳の病気	
	10. 皮膚の病気	
	—演習—	
	症状の小さな変化にどの様に気づくか？	
	「もうお腹がいっぱい。食べたくない。」と言ったら何を考えますか。	
	グループワーク・個人ワークどちらでも	

8日目

9:30～12:30	認知症の理解	テキスト第3分冊
	1. 認知症ケアの理念	p 5 8
	1. 認知症ケアの理念	
	2. パーソンセンタードケア	
	3. 認知症ケアの視点	
	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
	1. 認知症の概念と原因疾患・病態	
	1. 認知症の概念	
	2. 認知症の中核症状	
	3. 認知症の原因疾患の診断	
	4. 認知症の治療	
	5. 認知症と間違えられやすい症状	
	6. 認知症についての最近の話題	
	2. 原因疾患別ケアのポイントと健康管理	
	1. 長期にわたる食生活の偏り	
	2. 脱水	
	3. 便秘	
	4. 低栄養	
	5. 運動量の低下	
	6. 廃用症候群	
	7. 口腔ケア	
13:30～16:30	認知症に伴う心と体の変化と日常生活	
	1. 生活障害、心理、行動の特徴	
	1 認知症の人の心の内	
	2. 周辺症状	
	3. 原因疾患による認知症症状の違い	
	2. 利用者への対応	
	1. ケアのあり方と周辺症状	
	2. 認知症症状の背景を読み解く	
	3. 非薬物療法	
	家族への支援	
	1. 家族との関わり方	
	1. 認知症の受容過程での援助	
	2. 介護負担の軽減（レスパイトケア）	

9日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	障害の基礎的理解	テキスト第3分冊
	1. 障害の概念とICF（障害者福祉の基本理念）	p 1 0 6
	1. 障害者福祉の基本理念	
	2. 障害の概念と国際生活機能分類（ICF）	
	事例にてICFの理解	
	障害の医学的側面の基礎的理解	p 1 1 1
	1. 肢体不自由（身体障害）	
	1. 代表的な病気とその障害像	
	2. 生活援助のポイント	
	3. 廃用症候群	
	4. 障害の受容	
	2. 内部障害	
	1. 代表的な疾患・障害	
	2. 生活援助のポイント	
	3. その他の疾患・障害	
	3. 視覚障害・聴覚障害	
	1. 視覚障害	
	2. 聴覚障害	
	3. 平衡機能障害	
	4. 音声・言語・咀嚼機能障害	
	1. 失語症	
	2. 構音障害、発生障害	
	3. 咀嚼・嚥下機能障害	
	5. 精神障害	
	6. 統合失調症	
	7. 躁うつ病等	
	8. 神経症性障害	
	9. アルコール依存症	
	10. 知的障害	
	11. 発達障害	
	12. ダウン症	
	13. 高次脳機能障害	
	家族の心理の理解、かかわり支援の理解	P160
	1. 介護する家族の遭遇するストレス	
	2. 障害の理解と受容支援	
	3. 介護負担の軽減	
13:30~16:30	介護の基本的な考え方	テキスト第4分冊

	1. 理論に基づいた介護	p 2
	2. 法的根拠に基づく介護	
	事例にてグループワーク	
	どのようなリスクがあるか、またリスクをどの様に解決するか	
	グループごとに発表し、学びを共有をする。	

10日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
	1. 学習と記憶に関する基礎知識	
	1. 学習の諸理論	
	2. 記憶のメカニズム	
	3. 海馬と扁桃体	
	2. 感情と意欲に関する基礎知識	
	1. 感情とそれに類似する概念	
	2. 思考と認知の概念	
	3. 体力と意欲の関係	
	3. 自己概念と生きがい	
	1. 基本的欲求と自己有用感	
	2. 障害を持った人が今できていることを認める。	
	3. 精神的な拠り所の必要性	
	4. 生きがいと意欲	
	4. 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因	
	1. 人間としての存在価値の喪失感	
	2. 障害受容のプロセス	
	3. 自我の再生支援	
	4. 行動変容支援と動機付け	
	1. 基本的欲求と自己有用感	
	2. 障害を持った人が今できていることを認める。	
	3. 精神的な拠り所の必要性	
	4. 生きがいと意欲	
	4. 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因	
	1. 人間としての存在価値の喪失感	
	2. 障害受容のプロセス	
	3. 自我の再生支援	
	4. 行動変容支援と動機付け	
13:30~17:30	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	テキスト第4分冊
	1. 健康チェックとバイタルサイン	p 17
	1. バイタルサイン	
	2. 体温と脈拍の測定	
	3. 血圧の測定	
	4. 顔色・皮膚などの全身観察	
	5. 訴えと健康チェック	
	6. 利用者の様子の普段との違いに気づく視点	
	7. 生命の維持	

	2. 骨・関節・筋肉に関する基礎知識	
	1. 骨 2. 関節 3. 筋肉	
	3. 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識	
	1. 神経系の分類	
	4. 自律神経と内部器官に関する基礎知識	
	1. 血液と免疫系 2. 心血管系 3. 呼吸器系 4. 消化器系	
	5. 腎・泌尿器系 6. 内分泌系 7. 生殖器 8. 皮膚	
	9. こころとからだを一体的に捉える	

11日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	生活と支援技術	
	1. 生活と家事	
	1. 人の暮らし	
	2. 衣食住の環境整備	
	2. 家事援助の基礎知識と生活支援	
	1. 個別性の尊重、個人の価値観・生活歴	
	2. 信頼関係の形成	
	3. 自立支援	
	3. 家事援助の技法	
	1. 調理の支援 2. 洗濯・衣類管理の支援	
	3. 掃除・ゴミ捨てるの支援 4. 買い物支援 5. 裁縫	
	4. ベッドメイキングの必要な基礎知識と方法	
	1. ベッドの利点、欠点 2. ベッドの種類と特徴	
	3. ベッドの選び方 4. 布団の利点、欠点	
	5. 寝具の意義 6. 寝具の選び方 7. 感染予防	
	8. ベッドメイキングの必要性	
	9. ベッドメイキングのポイントと留意点	
	－演習－ A4用紙でのシーツのたたみ方	
13:30~16:30	快適な居住環境整備と介護	テキスト第4分冊
	1. 快適な居住環境に関する基礎知識	p 76
	1. 人と住まい	
	2. 高齢者に必要な住まいの性能	
	2. 介護保険による住宅改修	
	1. 住宅改修サービスの目的	
	2. 介護保険による住宅改修の概要	
	3. 福祉用具に関する基礎知識	
	1. 福祉用具の概念	
	2. 代表的な福祉用具の理解	
	－演習－	
	自分の家の危険なところを考え書き出す。	
	「事故を起こさないための環境整備」についてディスカッション	
	時間があれば p 84 事例を考えてみる。	

12日目

時間	カリキュラム	
9:30~10:30	整容に関する心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	1.整容に関する基礎知識	p102
	1.整容行動とは	
	2.具体的な整容行動	
	2.整容の支援技術	
	1.爪切り	
	2.口腔ケアは説明のみ演習は食事の時にします。	
	3.身体状況に合わせた衣服の着脱	
11:30~12:30	－演習－	
	・片麻痺の人が座位で行う前開き上着の交換	
	脱健着患の意味を伝えること。	
	片麻痺の実体験を生徒にしてみよう。	
	介護の仕方をデモでみせる。	
	二人一組で演習する。	
13:30~17:30	－演習－	
	・ベッドメイキング・全員かけ方 畳み方	
	・ベッド上での前開きパジャマの交換	
	・ベッド上での和式寝巻きの交換	
	全身体験 講師によるデモンストレーション	

13日目

時間	カリキュラム	
9:30~16:30	移動に関する心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	1. 移動・移乗に関する基礎知識	p 1 1 6
	1. 移動・移乗介助の意義・目的	
	2. 残存能力の活用・自立支援	
	3. 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法	
	4. 重心・重力の働きの理解	
	5. ボディメカニクスの原本原理	
	6. ボディメカニクスの原則	
	演習 ボディメカニクスの体験	
	2. 移動・移乗のための用具と活用方法	
	1. 福祉用具を活用する意義	
	2. 福祉用具の種類とその活用方法	
	1. 杖 2. 歩行器 6. その他の福祉用具	
	3・4・5 の車椅子は翌日説明	
	上方移動 水平移動 側臥位 側臥位から端座位	
	3. 負担の少ない移動・移乗と支援方法	
	1. 活動の低下が及ぼす体への影響	
	2. 活動の低下が及ぼす心への影響	
	3. 体位変換	
	－演習1－ ベッドメイキング	
	演習前デモンストレーション	
	上方移動 (P131) 手前に寄せる (P132)	
	側臥位 (P133) 端座位 (P134)	
	－演習2－ 歩行の介助(杖歩行) 室内	
	・杖・患・健で歩く理由を生徒が考える。	
	・歩行の介助 ・階段昇降	
	・視覚障害者の歩行介助 外出支援	
	アイマスクをして外出 公園まで(ルート表あります。)	

14日目

時間	カリキュラム	
9:30~17:30	移動に関する心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	講義	
	車椅子の種類 基本構造 車椅子の選定と活用方法	p 1 2 3
	車椅子の介助	
	家族に取り扱いが分かるように危険なところを伝える。	
	4. 移動と社会参加の留意点と支援	P 1 4 7
	道路の危ないところなど伝えてください。	
	－演習－	
	1. 広げ方・たたみ方	
	2. 段差超え 講師は安全配慮。	
	デモンストレーション	
	3. 端座位から車椅子移動	
13:30~17:30	屋外演習	
	二人一組で公園まで行く。	
	段差超え・グレーチングの渡り方・砂地など体験する。	

15日目

時間	カリキュラム	
9:30~17:30	食事に関連した心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	1. 食事に関する基礎知識	p150
	1. 私たちの生活における食事の意味	
	2. 食事摂取のしくみ	
	3. 加齢や障害に伴うさまざまな症状	
	2. 食事環境の整備と用具の活用方法	
	1. 食事に関連した観察のポイント 2. 適切な食事環境	
	図表8-4 片麻痺の人のテーブルの高さの確認	
	3. 楽しい食事を阻害する要因と支援方法	
	1. さまざまな状態像に合わせた介護方法	
	2. 誤嚥した場合の対応	
	3. 食事介護における観察のポイントと記録	
	4. 食事と社会参加の留意点と支援	
	1. 食事介護の社会的側面 2. 口腔機能	
11:30~	ー演習ー	
時間は調整可	・自助具の紹介と説明 手洗い	
	1. 片麻痺の方の食事介助	
	・トロミ付き水分の摂取体験と介助演習	
	1日に1500CC経口摂取するためにはどんな方法がある。意見を聞く。	
	・テーブルの上に食事・飲み物・スプーン・コップなど並べる。	
	・介護者 利用者を決める。テープで口元をふさぐ	
	利き手麻痺の設定で自己摂取体験	
	・介助の位置を考える。	
	・介護者は、スプーンに飲み物を注ぎ一口利用者に勧める。	
	(嚥下状態の確認)	
	・食事介助する。半分ほど食べたら交代。	
	2. 視覚障害の食事介助介助 クロックポジションの説明	
	どんな支援が必要か	
休憩 1時間	3. 口腔ケア (食事後すぐが人前での嗽がどの様に感じるかが理解できる。)	
	紙コップ 1つは水を汲む。 1つは口をすすいだ後の水を捨てる様のもの	
	準備: コップに水を汲む。利用者が歯磨きをする。その後介助をする。	
	人前で嗽はどう思うのか。みんなの意見を聴く。	
	・ベッドを出し寝たきりの人の食事介助の演習	
	人前で嗽を嫌がる生徒がいたら食後すぐでなくてもいいです。	

16日目

時間	カリキュラム	
9:30~17:30	入浴と清潔保持に関する心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	1. 入浴と清潔保持に関する基礎知識	p 170
	1. 入浴の介護	
	2. 清拭の介護	
	2. 入浴と整容の用具の活用方法	
	1. シャワー浴・一般浴(片麻痺利用者)の介助	
	2. 清拭の介助	
	3. 手浴・足浴の介助	
	4. 洗髪・ひげ剃りの介助	
	3. 楽しい入浴を阻害する要因と支援方法	
	1. 入浴に際したリスクと対応	
	2. 認知症高齢者の入浴に際したリスクと対応	
	—演習—	
	1. 手浴 ベッド上・足浴 椅子に座って実施	P183・184
	2. クリーパットの作り方	P186
	3. ベッド上での洗髪	P186
	4. 清拭(顔・首・手・腕)	P182
	5. 片麻痺の人の入浴介助	P177・179

17日目

時間	カリキュラム	
9:30~17:30	排泄に関する心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	1. 排泄に関する基礎知識	p 190
	1. 排泄の意義	
	2. 排泄のメカニズム	
	3. 排泄障害	
	2. 排泄環境の整備と用具の活用方法	
	1. 排泄しやすい環境整備	
	2. 排泄用具の選択と活用方法	
	3. 爽快な排泄を阻害する要因と支援方法	
	1. 排泄に影響を及ぼす要因	
	2. 排泄障害が日常生活に及ぼす影響	
	3. 排泄を支援する際の基本原則	
	4. 排泄支援の実際	
	ー演習ー	
	・テープ式オムツ交換演習（片麻痺を設定し、一部介助 ベッド上でパジャマ上下着用	P 211
	・ベッドからポータブルトイレへ移動し排泄介助（陰部洗浄） パジャマ下着用	P 208
	・差し込み便器の使い方と尿器の使い方	P 209
	・最後に尿取りパット・リハパンの吸水性実演	
	150ccの水を含んだ リハパンを履いてみる。	
	パットにどの様に吸収していくかの確認・パットの中身の確認	

18日目

時間	カリキュラム	
9:30~12:30	睡眠に関する心と体のしくみと自立に向けた介護	テキスト第4分冊
	1. 睡眠に関する基礎知識	p 2 1 5
	1. 睡眠の基礎知識	
	2. 睡眠の役割	
	3. 睡眠障害の種類	
	2. 睡眠環境と用具の活用方法	
	1. よく眠るための寝室（環境整備）	
	2. 快適に休養するための寝具の意義と知識	
	3. 快い睡眠を阻害する要因と支援方法	
	1. 睡眠を阻害する要因	
	2. 安眠のための介護の工夫	
	－演習－	
	グループディスカッション眠るための環境とは 発表	
	間違い探し 絵	
13:30~16:30	死にゆく人に関する心と体のしくみと終末期介護	
	1. 終末期に関する基礎知識	
	1. 終末期ケアとは	
	2 住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケア	
	2. 生から死への過程と心の理解	
	1. 高齢者の死に至るパターンとケアの特徴	
	2. 終末期の身体的状態と苦痛を和らげるケア	
	3. 終末期の心理状態	
	3. 苦痛の少ない死への支援と他職種との連携	
	1. ケアプランに基づいた介護	
	2. 介護従事者の役割と他職種との連携	
	3. 全身状態の観察	
	4. 誤嚥の防止と嚥下状態の観察	
	5. 心理状態の観察	
	6. 介護従事者の基本的態度	
	テキストにはないですがエンゼルケアとグリーンケアの説明	
	－演習－	
	死生観についてグループディスカッション 発表	

19日目

時間	カリキュラム	
9:30～16:30	生活支援技術演習	テキスト第4分冊
	1. 介護過程の基礎的理解	p 2 3 6
	1. 科学的思考と介護過程	
	2. 介護過程の展開に必要な構成要素	
	－演習－	
	事例1・事例2 グループワーク 発表	

20日目

時間	カリキュラム	
9:30~16:30	生活支援技術演習	テキスト第4分冊
	2. 総合生活支援技術演習（事例による展開）	p 236
	1. 事例1 玉置静さんへの介助	
	ICF国際生活機能分類での情報整理シートを使用	
	場面の例題に対して事例展開をする。	
	個人ワーク及びグループワークを取り入れ発表	

21日目

時間	カリキュラム	
9:30～13:30	振り返り	テキスト第4分冊
	1. 事業所などにおけるOJT・OFF-OJT	p 2 6 8
	1. 介護の理解と現任者研修	
	2. 介護現場で求められるOJT	
	3. 介護職のキャリアにつながるOJT	
	4. OJT・OFF-OJT	
	2. 振り返りの課題	
14:30～15:30	終了評価	
	筆記試験	